

環境活動レポート



株式会社 福永建設工業

発行日 2019年6月30日

(対象期間:2018年4月~2019年3月)

目 次

1	組織の概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等）	1
2	対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	4
3	環境方針	5
4	環境目標	6
5	環境活動計画	6
6	環境目標の実績	7
7	環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	7
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	8
9	代表者による全体評価と見直しの結果	8

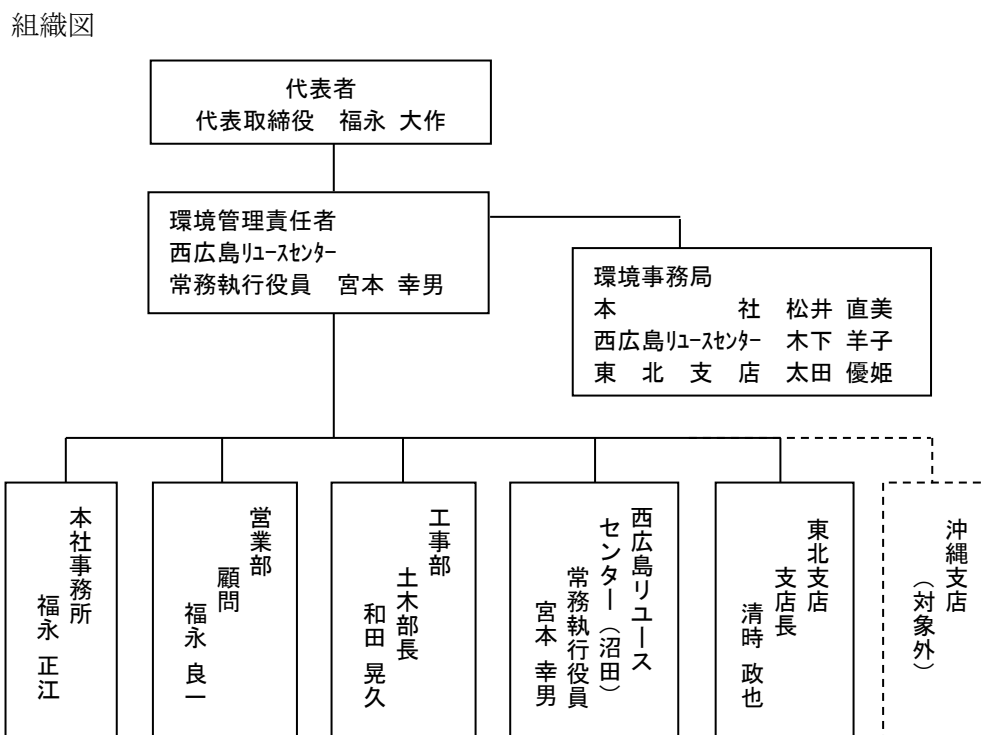
1 組織の概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等）

- (1) 事業所名 株式会社 福永建設工業
- (2) 代表者 代表取締役 福永 大作
- (3) 法人設立年月 昭和 55 年 10 月
- (4) 資本金 5,000 万円
- (5) 所在地
- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 本社 | 広島県広島市西区観音本町 1 丁目 16 番 22 号 |
| 工事部 | 広島県広島市西区観音本町 1 丁目 16 番 9 号 |
| 西広島リユースセンター 沼田工場 | 広島県広島市安佐南区伴北 4 丁目 9820-1 |
| 己斐資材置場 | 広島県広島市西区己斐上 4 丁目 |
| 東北支店 | 宮城県石巻市蛇田字新下沼 76-1 |
| 東北支店資材置場 | 宮城県石巻市鹿又字横前 136 番 |
| 沖縄支店 | 沖縄県那覇市松山 1-4-12-26 |

（現在対象外、2020 年度から含む予定）

- (6) 事業の概要 土木構造物及び建築物の設計・工事監理及び施工、不動産開発、産業廃棄物収集運搬業、建設汚泥の中間処理

- (7) 事業規模等
- 工事等の件数 38 件
- 売上高及び廃棄物の収集運搬量・処分量
- 総売上高 1937 百万円（内、汚泥売上高 137 百万円）
- 廃棄物の収集運搬量 6632.71 t（広島）、11.4 t（東北）
- 廃棄物の処分量 23322.65 t
- 従業員数 60 名
- 事業所の延べ床面積 68m²（広島）、99m²（東北）



- (8) 担当者連絡先 宮本 幸男 (082) 293-0124

(9) 許可の内容

許可種類・番号	有効期間	種類
建設業許可 国土交通大臣許可(特-29)第24751号	H29.10.29 ～ H34.10.28	土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、ほ装工事業、塗装工事業、建築工事業、大工工事業、屋根工事業、鋼構造物工事業、しゅんせつ工事業、ガラス工事業、内装仕上げ工事業、建具工事業、左官工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鉄筋工事業、板金工事業、防水工事業、熱絶縁工事業、水道施設工事業
国土交通大臣許可(般-29)第24751号		管工事業
国土交通大臣許可(特-30)第24751号	H30.6.25 ～ H35.6.24	解体工事業
産業廃棄物処理業 広島県・収集運搬 第3409111977号 (積替え・保管は含まない) 宮城県・収集運搬 第0402111977号 (積替え・保管は含まない) 山口県・収集運搬 第03500111977号 (積替え・保管は含まない)	H26.9.27 ～ H31.9.26 H30.6.10 ～ H35.6.9 H28.11.15 ～ H33.11.14	汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く)、陶磁器くず及びがれき類(これらのうち廃プリント配線板、鉛製の管及び廃石膏ボードを含み、廃ブラウン管、鉛蓄電池の電極、廃容器包装、自動車等破砕物、判定基準に適合しないもの、石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く)水銀使用製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等を除く。
産業廃棄物処理業 広島市・処分 第7320111977号 中間処理(混合固化)	H30.3.29 ～ H35.3.28	汚泥(無機性であるものに限る、判定基準に適合しないものを含まない。)(特別管理産業廃棄物であるものを除く。)

(10) 施設等の状況

【産業廃棄物収集運搬業】

運搬車両：ダンプ 2t×1台、3t×1台、4t×2台、10t×5台、ユニック 3t×1台

【産業廃棄物処分類】

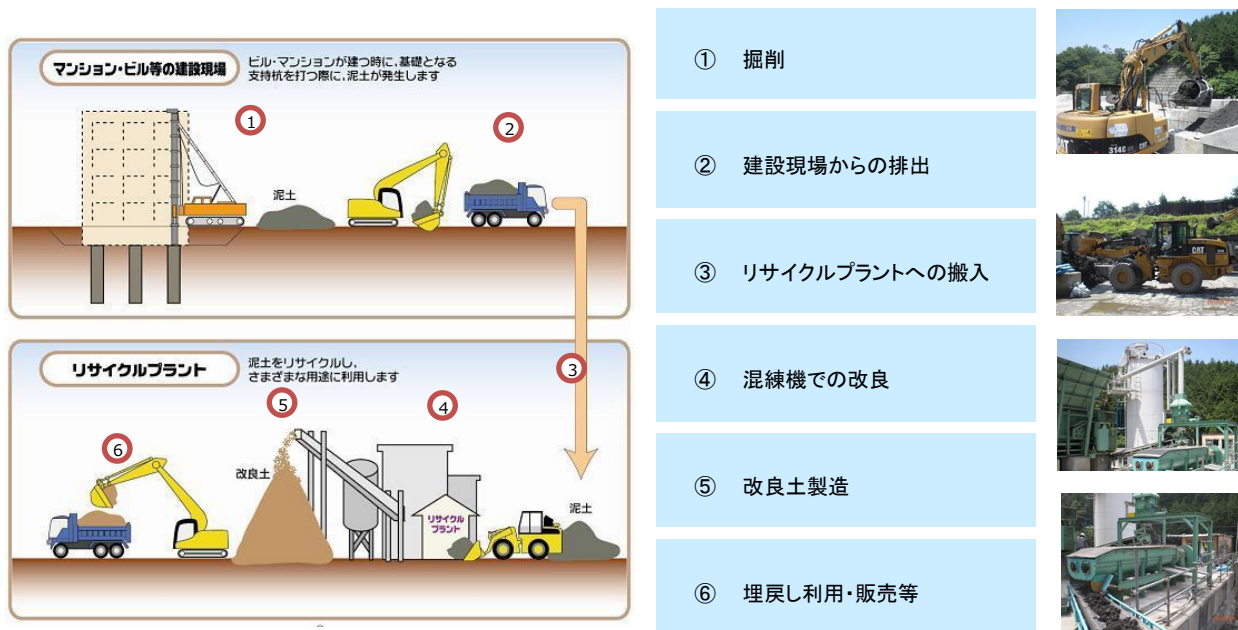
処理施設の種類：混合固化施設

処理する産業廃棄物の種類：汚泥（無機性であるものに限る、判定基準に適合しないものを含まない。）

処理能力（規模）：汚泥 600 t/日（8h）

処理方式：混合固化

処理工程図



(11) 処 理 実 績

受託した産業廃棄物の処理量

2018年4月～2019年3月

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)	
(i) 収集運搬	汚泥		6,644.11	
収集運搬量合計			6,644.11	
(ii) 中間処理	汚泥	混合固化	23,322.65	
	うち再資源化等	改良土	19,174.70	
	再資源化等量小計		19,174.70	
中間処理合計			23,322.65	
(iii) 最終処分	—	—	—	
最終処分量合計			0	
(iv) 中間処理後の産業廃棄物				
	最終処分	—	—	
	再資源化等	汚泥	改良土	19,174.70
	再資源化等量小計		19,174.70	
再資源化等量合計			19,174.70	

2 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

- (1) 対 象 範 囲 対象業種 全事業
サ イ ト 本社、工事部、西広島リユースセンター、東北支店
- (2) レポ-トの対象期間 2018年4月～2019年3月
- (3) 発 行 日 2019年6月30日

3 環境方針

(経営理念)

1. 顧客のニーズに応える為、安全・品質・価格・環境・整理整頓に創造力を最大限発揮する。
2. 個人の長所を伸ばし、人間性を尊重する。
3. 信用、信頼される社員個人・会社全体とする。

環境方針

私たちは、地球温暖化や地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、全社の環境経営への取組として、建築工事、土木工事、産業廃棄物収集運搬・処分の事業活動における環境負荷を低減するとともに、自らが施工する工事、受託した産業廃棄物の収集運搬・中間処理等に関して環境配慮を図ります。

行動指針

1. 以下の項目についての環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。
 - (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
 - (3) 水資源の節水
 - (4) グリーン購入
 - (5) 環境配慮型施工の提案
 - (6) 受託した廃棄物のリサイクル製品化
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取組を環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：平成24年9月1日

改定日： 年 月 日

代表取締役

福永大作

4 環境目標

環境方針 (キーワード)	環境目標項目	責任部門 責任者	基準値 平成 26 年度	年度毎目標		
				2018 年度	2019 年度	2020 年度
二酸化炭素 排出量の削減	①電力の削減	本社事務所・東北支店、営業部、工事部、西広島リースセンター	二酸化炭素排出量 893,770kg-CO ₂	△2.0% 875,895kg-CO ₂	△2.5% 871,426kg-CO ₂	△3.0% 866,954kg-CO ₂
	②自動車、建設重機の燃料使用量削減	営業部、工事部、西広島リースセンター				
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	本社事務所・東北支店 工事部 西広島リースセンター	一般廃棄物量 93.1kg	△2.0% 91.2kg	△2.5% 90.8kg	△3.0% 90.3kg
省資源	節水	本社事務所・東北支店 工事部 西広島リースセンター	水使用量 307.0m ³	△2.0% 300.8m ³	△2.5% 299.3m ³	△3.0% 297.8m ³
グリーン購入	グリーン購入	本社事務所・東北支店 工事部 西広島リースセンター	アイテム数 6	設定しない 積極的に購入	設定しない 積極的に購入	設定しない 積極的に購入
自ら提供する製品またはサービスの環境配慮	環境配慮型施工の提案	工事部	環境配慮型施工件数 6件	設定しない	設定しない	設定しない
	受託した廃棄物のリサイクル製品化	西広島リースセンター	リサイクル製品販売量 15,925 t	+2.0% 16,234 t	+2.5% 16,323 t	+3.0% 16,402 t

※使用電力の二酸化炭素排出量は、中国電力の平成 25 年度の排出係数：0.719(kg-CO₂/kWh)と、東北電力の平成 25 年度の排出係数：0.591(kg-CO₂/kWh)を使用して算出。
 ※化学物質については、使用していないため、目標設定なし。

5 環境活動計画

環境方針 (キーワード)	環境目標項目	責任部門 責任者	年度毎達成手段		
			2018 年度	2019 年度	2020 年度
二酸化炭素 排出量の削減	①電力の削減	本社事務所 東北支店 営業部 工事部 西広島リースセンター	・空調の適温化 ・不要照明の消灯 ・電力不要時の負荷遮断、 変圧器遮断 ・工場の運転効率の向上	・空調の適温化 ・不要照明の消灯 ・電力不要時の負荷遮断、 変圧器遮断 ・工場の運転効率の向上	・空調の適温化 ・不要照明の消灯 ・電力不要時の負荷遮断、 変圧器遮断 ・工場の運転効率の向上
	②自動車、建設重機の燃料使用量削減	営業部 工事部 西広島リースセンター	・エコドライブ ・重機・建設機械の省エネ 運転 ・低燃費車に更新 1 台	・エコドライブ ・重機・建設機械の省エネ 運転 ・低燃費車に更新 1 台	・エコドライブ ・重機・建設機械の省エネ 運転 ・低燃費車に更新 1 台
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	本社事務所 東北支店 工事部 西広島リースセンター	・裏紙の使用 ・ミスコピーの防止 ・プロジェクター、電子化 によるペーパーレス化	・裏紙の使用 ・ミスコピーの防止 ・プロジェクター、電子化 によるペーパーレス化	・裏紙の使用 ・ミスコピーの防止 ・プロジェクター、電子化 によるペーパーレス化
省資源	節水	本社事務所 東北支店 工事部 西広島リースセンター	・節水運動 ・雨水利用	・節水運動 ・雨水利用	・節水運動 ・雨水利用
グリーン購入	グリーン購入	本社事務所 東北支店 工事部 西広島リースセンター	・グリーン購入の推進	・グリーン購入の推進	・グリーン購入の推進
自ら提供する製品またはサービスの環境配慮	環境配慮型施工の提案	工事部	・常に環境に配慮した施工 に取り組む。	・常に環境に配慮した施工に 取り組む。	・常に環境に配慮した施工に 取り組む。
	受託した廃棄物のリサイクル製品化	西広島リースセンター	・リサイクル製品販売の推進	・リサイクル製品販売の推進	・リサイクル製品販売の推進

6 環境目標の実績

環境方針 (キーワード)	環境目標項目	実績		年度目標	
		平成 26 年度 (基準年)	2018 年 4 月～2019 年 3 月	2018 年度	
二酸化炭素排出量の削減	電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減	893,770 kg-CO ₂	1,147,586 kg-CO ₂	△2.0% 875,895 kg-CO ₂	
	①電力の削減	112,349 kWh	102,775 kWh		
	②自動車、建設重機の燃料使用量削減	ガソリン	84,307 L 763 kg-CO ₂ (月平均排出量/台)		100,616 L 538 kg-CO ₂ (月平均排出量/台)
			軽油		202,972 L
		重油	25,641 L		275,197 L
灯油		6,287 L	41,167 L	4,302 L	
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	93.10kg	45.0 kg	△2.0%	
省資源	節水	307.00m ³	297.0 m ³	△2.0%	
グリーン購入	グリーン購入	6 アイテム	104 アイテム	設定しない	
自ら提供する製品またはサービスの環境配慮	環境配慮型施工の提案	6 件	環境に配慮して取り組んだ	設定しない	
	受託した廃棄物のリサイクル製品化	15,925 t	19,175 t	+2.0%	

※使用電力の二酸化炭素排出量は、中国電力の平成 25 年度の排出係数：0.719(kg-CO₂/kWh)と、東北電力の平成 25 年度の排出係数：0.591(kg-CO₂/kWh)を使用して算出。

7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

環境方針 (キーワード)	環境目標項目	2018 年 4 月～2019 年 3 月の環境活動計画の取組結果と評価		次年度の取組
		取組結果	評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減	(×) 目標を達成していない。		①電力の削減、②自動車、建設重機の燃料使用量削減の項による。
	① 電力の削減	(○)	不要な電気をつけない等、節電に取り組んだ結果、達成できた。	電力の省エネをさらに周知する。
	②自動車、建設重機の燃料使用量削減	(×)	エコドライブや「低騒音」、「低振動」、「排出ガス対策型」の重機を使用するよう心掛けたが達成できなかった。	自動車のエコドライブ、建設重機のエコ運転の周知徹底を継続する。
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	(○) 目標を達成している。	コピー紙の裏紙利用やミスコピーを減らす等を積極的に行うことができた。	裏紙使用等を継続する。
省資源	節水	(○) 目標を達成している。	水を出しっぱなしにしない等、不要な水を使用しないよう心掛け達成できた。	節水運動等を継続する。
グリーン購入	グリーン購入	(○)	エコマークのついた商品を買うことを心掛けるよう取り組めた。	グリーン購入推進を継続する。
自ら提供する製品またはサービスの環境配慮	環境配慮型施工の提案	(○)	環境配慮型施工をするよう取り組めた。	環境配慮型施工の取組を推進する。
	受託した廃棄物のリサイクル製品化	(○) 目標を達成している。	意欲的に営業し受注したことで達成できた。	リサイクル製品化を推進し、年間を通して達成状況を把握すること。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等（廃棄物処理法、自動車3法、建設リサイクル法、騒音規制法、振動規制法等）の順守評価（平成31年3月30日）を実施し、法遵守を確認しました。また、違反、訴訟等は過去3年間ありません。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

災害復旧の工事など、より重機を多く使用する工事の増加により、燃料の使用量が増加しているため目標を達成することができなかったが、従業員全員にエコ運転等を周知徹底させることで、不要な使用を抑えるよう心がけて取り組んでいます。

今後も創意工夫を重ね、環境に配慮した行動を、引き続き心掛けることを継続していきます。